

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **デング熱**の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は2日以上続く発熱、頭痛、発疹、血小板減少、白血球減少です。感染地域は国外(モルディブ)で、感染経路は蚊です。本年の累積報告数は9例となりました。
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が1例(60歳代男性)あり、症状は発熱、意識障害、肺炎、多臓器不全です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は33例となりました。
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が3例(60歳代男性、70歳代及び90歳代女性各1例)ありました。本年の累積報告数は44例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が5例(50歳代男性2例、40歳代、80歳代及び90歳代女性各1例)ありました。本年の累積報告数は73例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が2例(40歳代男性、30歳代女性各1例)(第51週追加報告分1例含む)ありました。本年の累積報告数は66例となりました。
- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は、京都市で前週の17.46(1,205例)から18.28(1,261例)に、全国でも前週の21.22から、23.24に増加しました。体調管理に注意し、手洗いやうがいの励行、咳エチケットなど予防を徹底して下さい。インフルエンザの発生状況や予防対策については、下記URLを御参照ください。
 - インフルエンザの発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
 - インフルエンザの発生状況について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000051303.html>

◆ 今週のトピックス: <百日咳>

百日咳(五類感染症)は、2018年1月1日から、小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 7例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 330例(肺結核 146例, その他結核79例, 潜在性結核感染者 105例)うち喀痰塗抹陽性 69例】
- ・ 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 33例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 44例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 5例【1月以降の累積報告数 73例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 66例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	18.28	1,261
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.26	312
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.07	89
	③ 咽頭結膜熱	0.53	23
	④ RSウイルス感染症	0.47	20
	⑤ 水痘	0.44	19
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <百日咳>

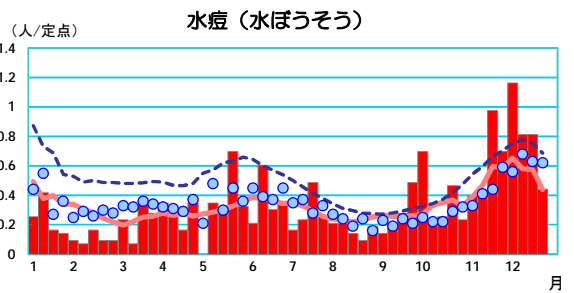
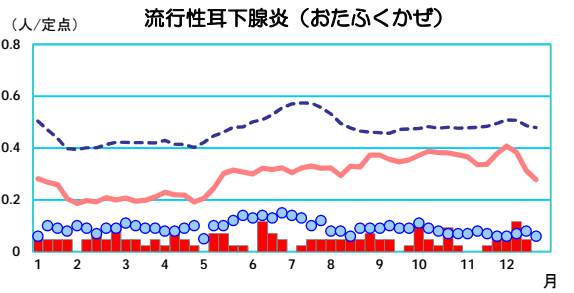
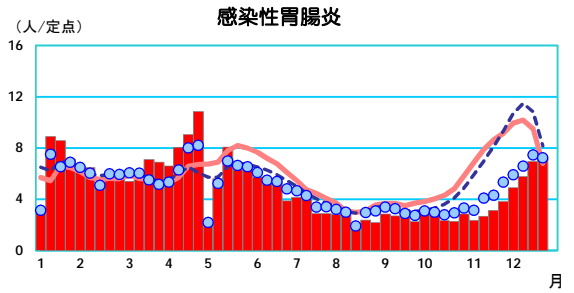
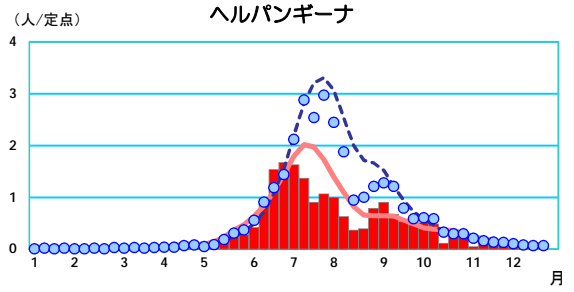
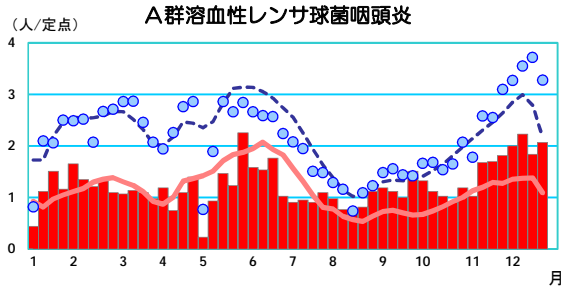
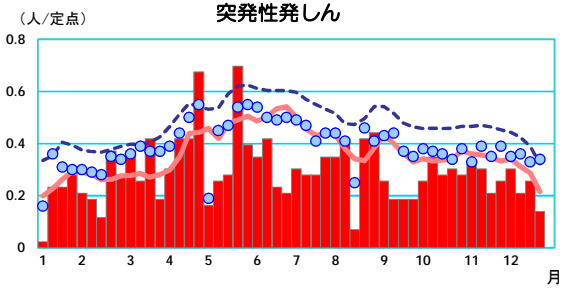
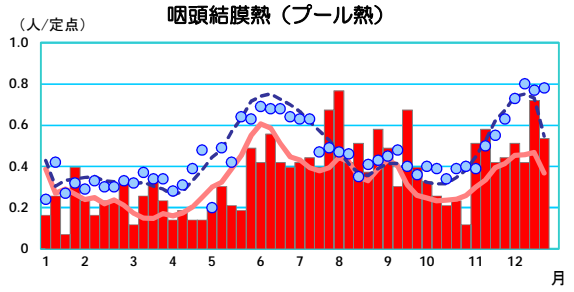
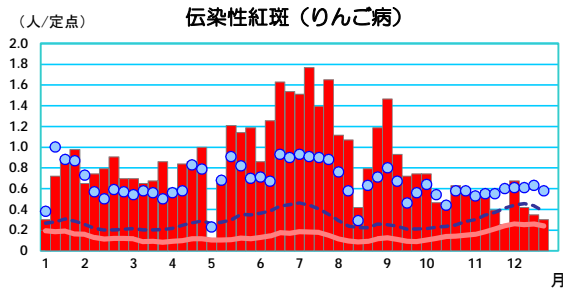
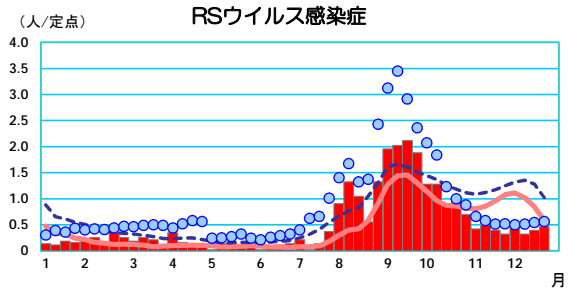
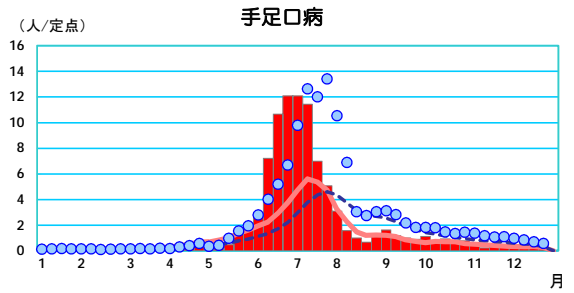
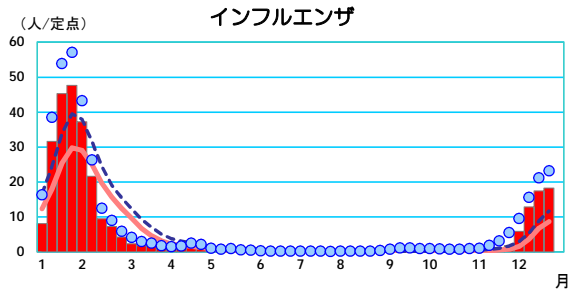
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、2020年1月8日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第52週(12月23日～12月29日) トピックス: <百日咳>

百日咳(五類感染症)は、2018年1月1日から、小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。これは、以前多くを占めていた0～4歳の報告数が減少し、相対的に15歳以上の割合が増加してきたこと、また、定点把握では集団感染の適時把握ができないなどの理由によるものです。

この変更により、変更前の2014年から2017年までの年間の小児科定点医療機関からの報告数は、京都市では10例前後、全国ではおよそ1,700～3,000例で推移していましたが、変更後の2018年は本市報告数は87例、さらに2019年は113例となりました。全国でも2018年は約12,000例でしたが、2019年は約17,000例と増加が見られます(図1)。

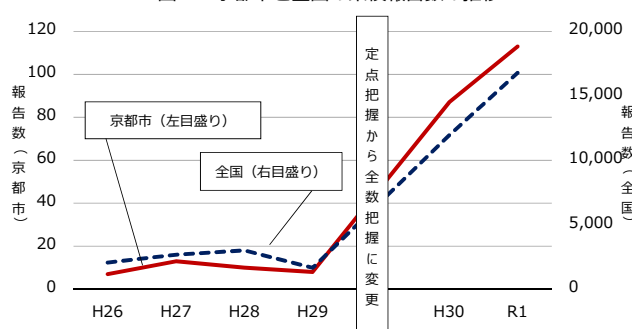
15歳以上の割合について、実際に2019年の全国における年齢階級別割合をみると、5歳未満が10%、

5～9歳が34.8%、10～14歳が26.6%で全体の約7割を占め、学童期及びその後数年の年齢に集中していますが、15歳以上も28.5%と約3割を占めていることが明らかになりました(図2)。

百日咳の効果的な予防方法はワクチン接種です。日本では、定期予防接種として生後3箇月から90箇月(7歳6箇月)までに4回接種することになっています。標準接種スケジュールでは、1歳6箇月前後で4回目の接種となっています。なお、ワクチン接種しているにもかかわらず、報告数で5～14歳の学童期に多い原因として、百日咳ワクチンの免疫効果が4回目の接種から4～12年で減衰することが挙げられています。このため、海外の一部の国では、学童期にも百日咳ワクチンを接種し、多い国では成人までに6回接種しています(表1)。

日本においても、学童期以降の百日咳に対する免疫を維持することを目的に、日本小児科学会は、就学前に三種混合ワクチンの追加任意接種を推奨しています。また、11歳以上13歳未満の定期接種については、二種混合ワクチンの代わりに、三種混合ワクチンも追加接種できる(ただし任意接種)ようになりました(図3)。なお、成人であっても、任意で三種混合ワクチンを接種することができます。三種混合ワクチンの接種についてはかかりつけの医療機関に御相談ください。

図1 京都市と全国の累積報告数の推移



(表1) 諸外国における百日咳ワクチンの接種スケジュール及び回数

国名	初回接種 年齢・月齢	小児/青年 追加接種 年齢
アメリカ	2,4,6箇月+15～18箇月	4～6歳+11～12歳
カナダ	2,4,6箇月+18箇月	4歳+12～16歳
イギリス	2,3,4箇月	就学前
フランス	2,4,11箇月	6歳
ドイツ	2,3,4箇月+11～14箇月	5～6歳+成人
日本 (標準接種時期)	3,4箇月+5～11箇月 +1歳0～6箇月	5～6歳(推奨) +11～12歳(推奨)

※病原微生物検出情報(月報)(IASR)Vol.38 p37-38:2017年2月号を基に作成

図2 全国の百日咳の年齢分布(2019年 第1週～第52週)

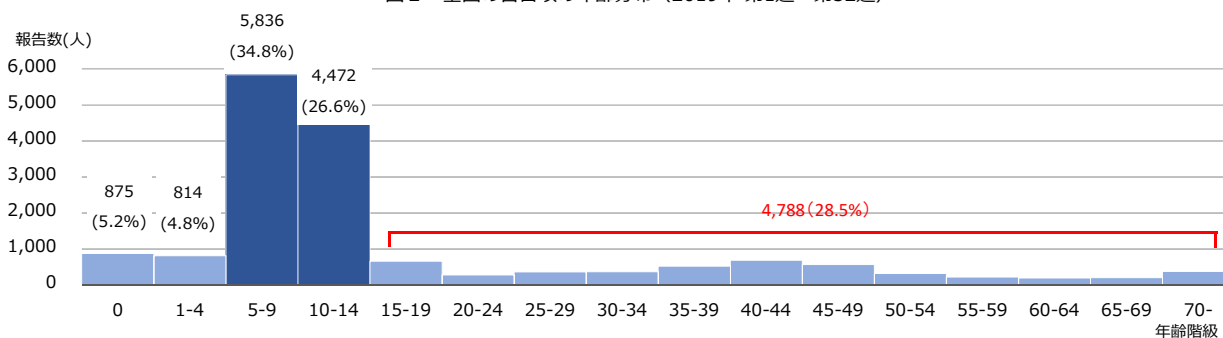


図3 二種混合、三種混合、四種混合ワクチンの接種時期

ワクチン	0歳										1歳										2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳			
	0月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	0月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月												8月	9月	10月
四種混合																																		
三種混合																																		
二種混合																																		

四種混合 1回目, 二種混合 1回目, 四種混合 2回目, 二種混合 2回目, 四種混合 3回目, 二種混合 3回目, 四種混合 4回目, 二種混合 4回目

任意で三混 (百日咳予防のため), 任意で三混も可 (百日咳予防のため)

四種混合 (DPT-IPV) : ジフテリア(D), 百日咳(P), 破傷風(T), ポリオ(IPV)
 三種混合 (DPT) : ジフテリア(D), 百日咳(P), 破傷風(T)
 二種混合 (DT) : ジフテリア(D), 破傷風(T)

※三種混合ワクチンの接種時期について模式的に示したものです。
 接種時期及び接種ワクチンについてはかかりつけの医療機関にご相談ください。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第52週

疾病,行政区別報告数

2019年12月23日～2019年12月29日

データ入手日:2020年1月8日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	30	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	2					
上京	66	-	-	7	17	1	-	-	-	-	-	-	-					
左京	264	-	1	7	31	5	3	2	-	-	-	-	-					
中京	95	4	-	3	12	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	42	1	-	-	17	-	3	-	-	-	-							
山科	135	3	1	7	5	2	2	1	3	-	-	-	-					
下京	31	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-							
南	144	-	2	4	27	2	1	1	-	-	-							
右京	142	9	15	33	52	2	2	1	1	-	-	-	-					
伏見	176	3	4	20	91	3	3	6	1	-	-	-	-					
西京	136	-	-	6	57	3	1	-	1	-	-	-	-					
京都市計	1,261	20	23	89	312	19	16	13	6	-	-	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	4.29	-	-	0.50	0.25	-	-	-	-	-	-	-	2.00					
上京	13.20	-	-	2.33	5.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-					
左京	37.71	-	0.25	1.75	7.75	1.25	0.75	0.50	-	-	-	-	-					
中京	19.00	1.33	-	1.00	4.00	0.33	0.33	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	14.00	0.50	-	-	8.50	-	1.50	-	-	-	-							
山科	19.29	0.60	0.20	1.40	1.00	0.40	0.40	0.20	0.60	-	-	-	-					
下京	10.33	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-							
南	28.80	-	0.67	1.33	9.00	0.67	0.33	0.33	-	-	-							
右京	17.75	1.80	3.00	6.60	10.40	0.40	0.40	0.20	0.20	-	-	-	-					
伏見	16.00	0.43	0.57	2.86	13.00	0.43	0.43	0.86	0.14	-	-	-	-					
西京	17.00	-	-	1.20	11.40	0.60	0.20	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	18.28	0.47	0.53	2.07	7.26	0.44	0.37	0.30	0.14	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第52週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年12月23日～2019年12月29日

データ入手日:2020年1月8日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	1,261	5	18	52	52	58	82	91	84	81	77	69	212	38	70	65	107	53	16	21	10
RSウイルス感染症	年齢3	20	4	1	6	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		23	-	2	5	4	4	2	3	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		89	1	-	1	6	10	26	10	6	7	2	8	7	1	4	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		312	4	20	39	33	42	33	29	23	15	7	8	26	7	26	-	-	-	-	-	-
水痘		19	-	1	2	-	1	1	3	2	2	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		16	-	-	4	7	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		13	-	-	-	-	2	3	3	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		6	-	1	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	18.28	0.07	0.26	0.75	0.75	0.84	1.19	1.32	1.22	1.17	1.12	1.00	3.07	0.55	1.01	0.94	1.55	0.77	0.23	0.30	0.14
RSウイルス感染症	年齢3	0.47	0.09	0.02	0.14	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.53	-	0.05	0.12	0.09	0.09	0.05	0.07	0.02	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.07	0.02	-	0.02	0.14	0.23	0.60	0.23	0.14	0.16	0.05	0.19	0.16	0.02	0.09	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		7.26	0.09	0.47	0.91	0.77	0.98	0.77	0.67	0.53	0.35	0.16	0.19	0.60	0.16	0.60	-	-	-	-	-	-
水痘		0.44	-	0.02	0.05	-	0.02	0.02	0.07	0.05	0.05	0.07	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.37	-	-	0.09	0.16	0.07	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.30	-	-	-	-	0.05	0.07	0.07	0.07	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.14	-	0.02	0.07	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	0.10	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第52週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年1月8日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	67	122	408	889	1,205	1,261
RSウイルス感染症	17	14	19	14	17	20
咽頭結膜熱	18	19	22	18	31	23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73	78	86	96	79	89
感染性胃腸炎	135	165	211	248	299	312
水痘	42	30	50	35	35	19
手足口病	13	16	20	15	17	16
伝染性紅斑	17	11	29	18	15	13
突発性発しん	9	11	13	9	11	6
ヘルパンギーナ	6	3	3	2	4	-
流行性耳下腺炎	1	3	3	5	2	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	2	2	2	2	2
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	399	474	866	1,351	1,717	1,761

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.97	1.77	5.91	12.88	17.46	18.28
RSウイルス感染症	0.40	0.33	0.44	0.33	0.40	0.47
咽頭結膜熱	0.42	0.44	0.51	0.42	0.72	0.53
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.70	1.81	2.00	2.23	1.84	2.07
感染性胃腸炎	3.14	3.84	4.91	5.77	6.95	7.26
水痘	0.98	0.70	1.16	0.81	0.81	0.44
手足口病	0.30	0.37	0.47	0.35	0.40	0.37
伝染性紅斑	0.40	0.26	0.67	0.42	0.35	0.30
突発性発しん	0.21	0.26	0.30	0.21	0.26	0.14
ヘルパンギーナ	0.14	0.07	0.07	0.05	0.09	-
流行性耳下腺炎	0.02	0.07	0.07	0.12	0.05	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.77	10.11	16.72	23.78	29.52	30.06

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。